

上里版スーパー・シティプロジェクト 地域まちづくり計画

令和7年6月
上里町

取組の概要

まちづくりにおける課題

- 人口減少・少子高齢化に対応するため、若年層・子育て世代等の移住、定住を促進する必要がある。
- 郊外開発が進み、市街地が拡散傾向にあるため、「神保原駅周辺地区」と「上里サービスエリア周辺地区」の賑わい創出と魅力の向上により、「市街地拡大型」から「都市機能集約型」の都市づくりに転換する必要がある。
- 近年の台風や集中豪雨等の自然災害の頻発を踏まえて、安全・安心なまちづくりが求められている。

まちづくりの方向性

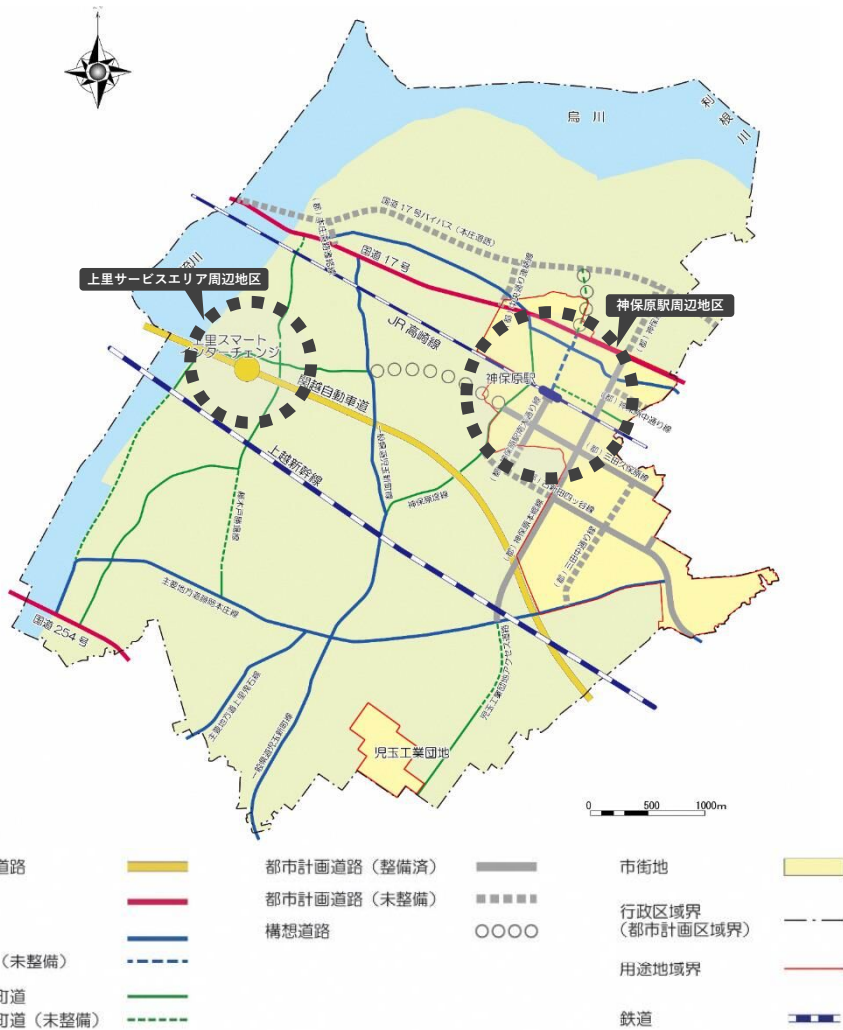
- 「神保原駅周辺地区」を中心拠点と位置付けて、駅周辺の整備や賑わいの創出により、利便性が高く誰もが住みやすい市街地の形成を目指す。
- 「上里サービスエリア周辺地区」を観光・交流拠点と位置付けて、上里スマートインターチェンジにより、関越自動車道と直結しているアクセス性を生かし、観光・産業機能の集積を目指す。

他の計画における位置付け

- 上里町第5次総合振興計画（後期基本計画）
- 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 上里町DX推進化計画
- 「上里サービスエリア周辺地区」の整備方針
- 第2次上里町環境基本計画（中間見直し）
- 上里町都市計画マスタープラン
- 上里町立地適正化計画
- 神保原駅北まちづくり基本計画

対象地域及び区域

- 対象地域：町全域
- 重点地区：神保原駅周辺地区 上里サービスエリア周辺地区



地域の現況

人口・世帯の状況

本町の人口は、平成22（2010）年の30,998人（国勢調査）をピークに減少傾向であり、令和2（2020）年には30,343人となっている。

世帯数は、人口がピークの平成22（2010）年が10,887世帯であったのに対し、令和2（2020）年では11,856世帯と増加している。特に、単独世帯の増加が大きく、世帯の少人数化が進んでいる。

人口推計（国立社会保障・人口研究所）では、令和27（2045）年に約2.3万人、令和47（2065）年に約1.7万人になる見込みである。

高齢化率は、令和2（2020）年の27.4％から令和27（2045）年には40.6％まで上昇する見込みである。

地域交通の状況

鉄道は、JR高崎線と上越新幹線が通っており、町内にはJR高崎線の「神保原駅」、隣接している本庄市には上越新幹線の「本庄早稲田駅」がある。

バスは、民間路線バスと町が共同運行するコミュニティバス「こむぎっち号」がある。民間路線バスは、本庄市と神川町をつなぐ路線で、町内の南部を走っている。コミュニティバス「こむぎっち号」は、町内全域をカバーする形で5ルートあったが、支線ルート4ルートについては乗客数の低迷が課題であった。そのため、令和7（2025）年4月に運行内容の見直しを行い、基幹ルート1ルートのみとし、町内商業施設や公共施設、住居エリアなどを結ぶとともに、神保原駅や路線バスとの連携を強化した。

一方で、支線ルートエリアに住んでいる方の交通手段も確保するため、広い範囲を柔軟に運行可能な「デマンド交通」を令和7（2025）年4月より運行開始した。

開発の状況

神保原駅南地区と田通地区の2地区において、土地区画整理事業を実施している。

東部の本庄市と隣接するエリアを中心に民間による住宅開発が進められ、市街地の広がりが見られる。

南部には、児玉工業団地が整備されている。

西部には、関越自動車道上里サービスエリアがある。平成27（2015）年には上里スマートインターチェンジが開通し、「上里サービスエリア周辺地区」の整備を進めている。

町の中心拠点である「神保原駅周辺地区」では、コンパクトで持続可能なまちを目指し、利便性向上と賑わい創出に向け、神保原駅北まちづくりを推進している。

人口減少・少子高齢化に伴い、神保原駅北側を中心に、空き家・空き地が増加している。

地域資源

本町は、埼玉県最北端に位置し、北部・西部は烏川・神流川を境に群馬県玉村町・高崎市・藤岡市に接し、南部・東部は本庄市・神川町と接している。

烏川・神流川の沿岸地帯で肥沃な土地に恵まれており、野菜、米、麦、畜産、果樹、花きがバランスよく市場に供給される県内でも有数の営農地帯であり、のどかな田園風景を楽しむことができる。

本町の東西を横断している関越自動車道の「上里サービスエリア」は、埼玉県の北の玄関口として、1日約2万人に利用されている。「上里スマートインターチェンジ」が平成27（2015）年12月に開通し、本町のアクセス性が向上したため、上里サービスエリア周辺に企業進出が進み、更なる発展が期待されている。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

- 住民参加や事業者参入を促進し、住民・事業者・行政の協働によるまちづくりを目指す。
- 住んでよかった、いつまでも住み続けたいと思える、生活に“ゆとり”を感じることができる、利便性の高いまちを目指す。
- エネルギーの効率的利用により、環境負荷の少ない、自然環境に優しいまちを目指す。
- 自然災害による被害を最小限に抑え、防災性の高い、安全に住み続けられるまちを目指す。

推進体制

■神保原駅周辺地区

地元に住んでいる方を中心に構成する「Local（地元住民）会議」、まちづくりに興味がある方を中心に構成する「まちなか再生ワークショップ」を組織し、神保原駅北まちづくりを推進している。

■上里サービスエリア周辺地区

上里サービスエリア周辺地区整備事業の推進に関し、必要な調査、研究及び検討並びに調整を行うため、副町長を会長とし、各関係課長等で構成する「上里サービスエリア周辺地区整備事業推進庁内連絡協議会」を設置している。

事業全体の概要

【コンパクト】賑わいのある拠点形成と交流・関係人口の増加による若年層・子育て世代等の移住、定住促進

- 空き地・空き店舗等の活用促進、交差点改良、道路の新設、神保原駅南北自由通路の改良により、神保原駅周辺の賑わい創出と利便性向上を図る。
- 神保原駅周辺の空き家の除却に対して補助金を交付し、空き家の適正管理や不動産の流通を促進する。
- 新設道路の沿道開発により、新市街地を形成し、子育て世代等の移住、定住を促進する。
- 上里サービスエリア周辺の拠点性向上に資する整備を検討する。
- 関越自動車道と直結しているアクセス性を活かし、更なる地域振興を図るため、上里サービスエリア周辺に企業立地を誘導する。

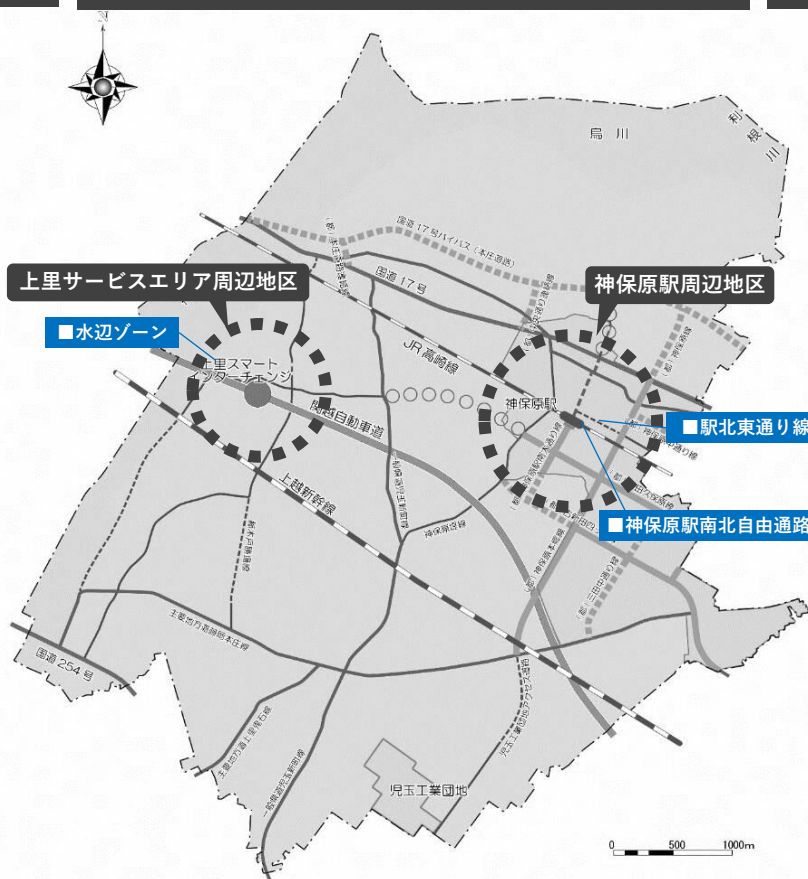
【スマート】地域課題の解決に向けたスマート技術の活用

- WEBアプリやAI技術の活用により、利用者ニーズに対応した公共交通サービスの充実を図る。
- 行政手続のオンライン化により、住民の利便性向上と行政運営の簡素化・効率化を図る。
- 公式 LINE アカウントやデジタルサイネージを活用し、誰もが情報にアクセスできるよう、情報発信の多様化を図る。

【レジリエント】災害に対する安全性の確保と脱炭素社会の推進

- 公共施設の更新時には、再生可能エネルギー等を導入し、ZEB化を推進する。
- 公用車の更新時には、電気自動車等の導入を推進する。
- 住宅用太陽光発電システム等の設置者に対して補助金を交付し、再生可能エネルギー等の導入を促進する。
- 浸水対策施設を整備し、雨天時の水災害発生を防止する。

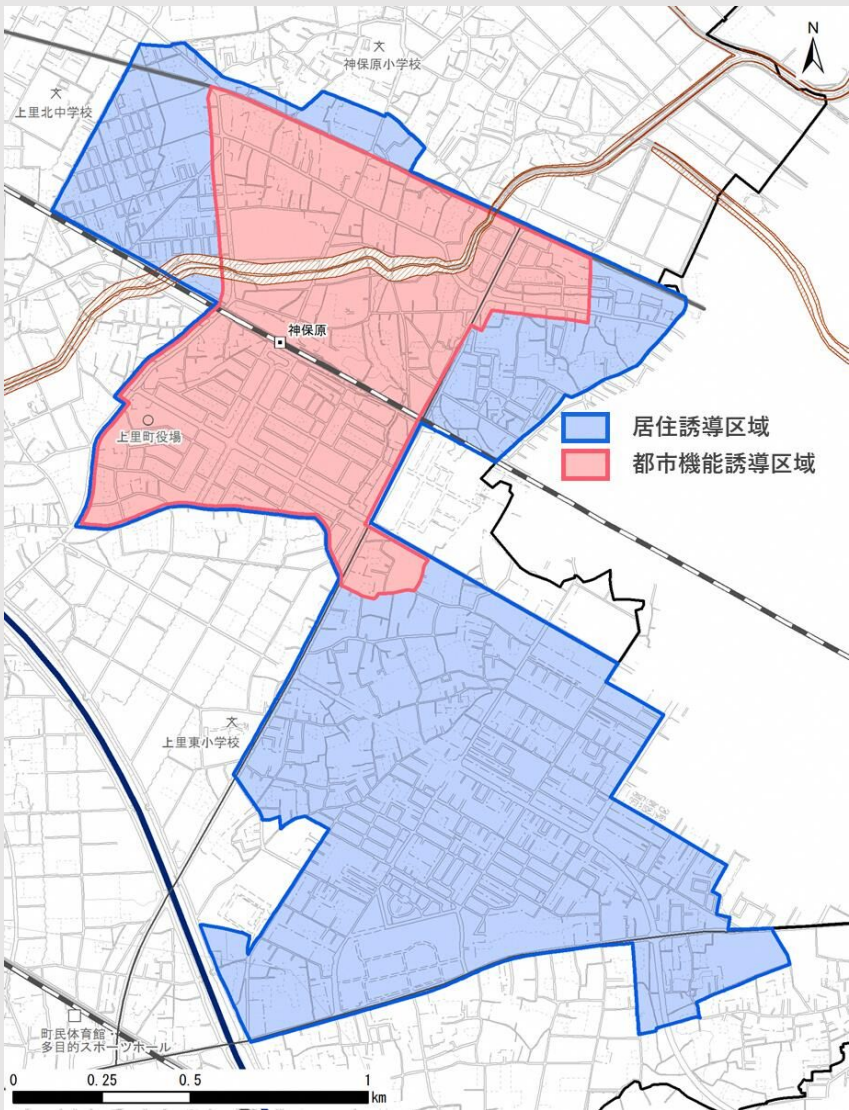
理想像



神保原駅南北自由通路に屋根を整備し、悪天候から歩行者を守ることにより、通行の快適性向上を図る。

計画図

上里町立地適正化計画



神保原駅北まちづくり基本計画



「上里サービスエリア周辺地区」の整備方針



【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考	
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降		
神保原駅周辺の賑わい創出	民間事業者町	空き地の活用支援、チャレンジショップの運営、神保原駅北まちづくり計画区域内の空き店舗等の改修に対して補助金を交付し、神保原駅周辺の賑わい創出を図る。							県補助活用	
			空き地の活用支援							
			チャレンジショップの運営							
				補助金交付						
神保原駅周辺の空き家対策	町	居住誘導区域内の空き家の除却に対して補助金を交付し、神保原駅周辺の空き家の適正管理や不動産の流通を促進する。	空き家等対策計画策定	補助金交付						
県道神保原停車場線の交差点改良	県町	県道神保原停車場線と県道勅使河原本庄線交差点のクランク形状を解消し、自動車交通及び駅周辺の歩行者等の安全を確保する。	路線測量	設計・用地測量・物件調査・用地取得・物件補償・工事						
駅北東通り線の沿道開発促進	民間事業者町	駅北東通り線の新設に合わせて、住宅や商業施設の沿道開発により新市街地を形成し、若年層や子育て世代の人口誘導を目指す。	用地測量	物件調査	用地取得・物件補償・工事			供用開始	国・県補助活用	
			基礎資料作成	公的支援・沿道用地取得・造成						
神保原駅南北自由通路の改良	鉄道事業者町	耐震補強により安全性を確保した上で、神保原駅南北自由通路に屋根を整備し、悪天候から歩行者を守ることにより、通行の快適性向上を図る。		耐震補強設計・関係機関協議・耐震補強工事					国・県補助活用	
				屋根設計・関係機関協議・屋根工事						

【コンパクト】事業一覧

[illegible]

【スマート】事業一覧

[illegible]

【レジリエント】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降	
公共施設のZEB化	町	公共施設の更新時には、再生可能エネルギー、蓄電池、省エネルギー設備や機器を導入し、温室効果ガスの削減や災害時のエネルギー供給を確保する。	再生可能エネルギー等の導入						
公用車のEV化	町	公用車の更新時には、温室効果ガスの削減や災害時のエネルギー供給を確保するため、電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池自動車の導入を推進する。	電気自動車等の導入推進						
再生可能エネルギー等の導入促進	町	住宅用太陽光発電システム、住宅用蓄電池システム、V2H（電気自動車充電電）の設置者に対して補助金を交付することにより、再生可能エネルギー等の導入を促進し、温室効果ガスの削減や災害時のエネルギー供給を確保する。	補助金交付						
雨水浸水対策事業	町	元小山第一排水区内に、浸水対策施設を整備し、雨天時の水災害発生を防止する。	関係機関協議・費用対効果検証・事業計画作成・設計・用地取得・工事						国補助活用

K P I

コンセプト	指標	基準値（調査時点）	目標値（達成年度）	備考
共通	上里町に住みたい人の割合 （ずっと住みたい、当分は住み 続けたいの合計）	76.7%（令和2年度）	80.0%（令和8年度）	第5次上里町総合振興計画 （後期基本計画）
コンパクト	居住誘導区域の人口密度	39.3 人/ha（令和元年度）	40.0 人/ha（令和22年度）	上里町立地適正化計画
スマート	情報基盤・発信力の満足度 （満足、やや満足の合計）	13.0%（令和2年度）	21.0%（令和8年度）	第5次上里町総合振興計画 （後期基本計画）
レジリエント	再生可能エネルギーの導入件数 （10kW未満）	619件（令和元年度）	1,486件（令和12年度）	第2次上里町環境基本計画 （中間見直し）